

社会福祉法人 丹波市社会福祉協議会

令和5年度 事業報告

社会福祉法人 丹波市社会福祉協議会

目 次

(項目の後の数字はページ)

令和5年度を取組（総括）	1
1. 法人運営	
1) 運営基盤整備	3
①会員制度（会費）	
②組織のあり方について検討	
③善意銀行	
④第三者委員会	
⑤福祉センター等の指定管理	
⑥支所事務所の移転	
2) 他機関との協働推進	6
①ほっとかへんネット丹波（丹波市社会福祉法人連絡協議会）	
②企業・団体等との協働	
3) 職員研修	8
①職員研修	
②広報研修	
③階層別・職種別研修	
2. 地域福祉事業	
1) 地域支援	9
①ふれあい・いきいきサロン活動支援	
②子ども食堂等の運営支援	
③コミュニティカフェの運営支援	
④福祉用具・備品の貸出し	
⑤出張教室	
⑥生活支援体制整備事業	
⑦地域福祉推進支援事業	
2) 当事者支援	15
①ひきこもり等社会的孤立にある方への支援	
②しゃきょうたすけあいフードドライブ事業	
③新型コロナ貸付借受人への相談支援（ほっとかへんネットワーク）	
④団体事務支援	
⑤独居高齢者宛書状制作、発送	
⑥見舞金（善意銀行）	
3) 子育て・教育支援	18
①福祉教育助成事業	

②福祉教育研修会の開催	
③丹波市ファミリーサポートセンター	
④認定こども園助成	
4) ボランティア活動・団体支援	21
①ボランティアグループに対する活動助成	
②ボランティアまつり開催経費の助成	
③サマーボランティア体験教室の実施	
④福祉団体助成	
⑤ボランティア登録・派遣調整	
⑥災害ボランティアセンター設置訓練の実施	
⑦災害ボランティア支援事業	
⑧ちーたん災害サポートネットとの連携	
⑨ボランティア講座等の開催	
5) 情報提供・啓発活動	27
①広報紙の発行	
②ウェブサイト・SNSの運営	
③福祉委員制度の周知と強化	
④社協ふくしまつりの開催	
⑤福祉バザー	
⑥第71回兵庫県社会福祉大会開催	
3. 生活支援事業	
1) 生活困窮者支援	30
①しゃきょうたすけあいフードドライブ事業（再掲）	
②生活福祉資金の貸付・償還相談支援	
③福祉資金の貸付（善意銀行）	
④物品援助事業（善意銀行）	
2) 権利擁護	32
①日常生活自立支援事業	
②無料法律相談	
③よろずおせっかい支縁センター・相談所	
4. 地域支援目標	34
5. 介護福祉サービス	
1) 高齢者介護サービス	36
2) 障がい者（児）介護サービス	36
3) その他の事業	37
①介護職員初任者研修	
②障がい者就労支援事業	
③障がい者相談支援事業	

6. 事業所別行動目標

- ① 東部ケアマネジメントセンター
- ② 西部ケアマネジメントセンター
- ③ ホームヘルプセンター
- ④ 西部デイサービスセンター
- ⑤ 訪問入浴サービスセンター
- ⑥ 相談支援事業所
- ⑦ 東部地域包括支援センター（介護予防）
- ⑧ 東部地域包括支援センター（地域包括）

令和5年度の取組（総括）

1 不適切な事務執行の反省と適正化への取組

昨年度に確認された相談支援事業所過誤請求事案については、丹波市の4回に及ぶ監査を受け、誤って受けていた報酬は返還処理を行うことで区切りはついたものの、市民の社協への信頼が大きく損ねられるものとなりました。

このような事案が発生した反省を踏まえ、再発させないためにも社協全体の問題として捉え、原因を究明して今後の事務執行の適正化を図るため、改善取組への基本方針として令和5年4月に「事務執行の適正化について」を策定しました。

また、各部署単位で職員討議を行い、職員及び組織として取り組むべき事項を令和5年11月に「事務執行の適正化に向けた実行計画」として策定し、職員全員で取り組んでいくと共に取組状況を毎年検証していくことを社協全体で確認しました。

本事案は社協にとって大きなダメージでありましたが、不適切な事務事業を見直す機会を与えられたものでもあり、体質改善に取り組むことができた前向きに捉えていきたいと考えます。

2 支えあいの地域づくりへの取組

平成28年度から市の受託事業として取り組んでいる生活支援体制整備事業では、地域支えあい推進員（生活支援コーディネーター）を各支所に配置して地域と話し合いを重ねてきた結果、新たに5地区（幸世、遠阪、国領、久下、小川）で協議体を設置する成果を得ることができました。

これにより市内25地区の内22地区で設置されたこととなり、日常生活圏域における住民相互の支えあいの地域づくりが根付いていくよう、引き続き必要な支援を行っていきます。

3 生活にお困りの方への積極的な支援

令和5年度より、兵庫県社協の補助事業として「ほっとかへんネットワーカー」1名を配置し、コロナ特例貸付者を始めとする生活困窮者支援として、家計見直しや食料支援へ取り組みました。

しかし、経済的な問題のみでなく介護やひきこもり、車上生活等、社協が行う資金貸付のみでの対応が困難な複合的・複雑化した問題の相談が増加しており、関係機関の有機的な連携の必要性を痛感する1年でありました。

4 地域包括ケアシステム深化への取組

平成31年度（令和元年度）から市の受託事業として取り組んできた東部地域包括支援センター業務については、市民周知を積極的に行ったことや、全市的に介護認定申請が増加傾向にあることにより、令和5年度は開設以来最も請求件数が多い結果となりました。

高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を続けられるよう、地域包括ケアシステムの本旨を踏まえ、市との受託契約を更新し引き続き介護や健康、権利擁護等の相談及び支援に取り組んでいくものとしております。併せて、介護予防事業が包括的かつ効果的に実施されるよう、必要な支援も行っています。

5 持続可能な社協体制への変革

限られた職員体制の中で業務効率化と効果的な地域支援を展開していくためには、組織再編は避けられない課題として、望ましい組織の在り方について内部検討を行ってまいりました。

これにより、支所体制を圏域化する判断に至り、地域自治組織代表者や支所運営協力委員長などへの説明を経て、令和6年度から実施するものとなりました。

支所体制の変革は、社協にとってやむを得ない選択でありましたが、地域福祉の後退につながる懸念を指摘する地域からの意見もあり、そのような懸念を払拭するためにも今後より積極的に地域に出向き、地域の声を聴く努力を続けて行く必要があります。

令和6年度は社協発足20周年を迎えることとなります。その時々々の社会情勢に対応されてきた歴代役職員のご尽力に深甚なる敬意を表すると共に、社協が今後目指していく方向をしっかりと見据えながら、一つひとつ必要な事業に全力を尽くしてまいりたいと考えております。

1. 法人運営

1) 運営基盤整備

① 会員制度（会費）

【年度計画】

今後の社協の事業体制予測を基に、令和5年度から会費の適正な金額についての検討を行います。社協の事業内容などのさらなる周知を行い、会費の使途についてのご理解を得られるよう努めます。

法人会費および個人からの賛助会費については、前年度に引き続き丹波市社協の活動にご理解ご協力をいただくよう周知を行い、さらに加入に向けご理解を得られるよう取り組みます。

【実施状況】

自治会未加入世帯に対し、ポスティングによる会費依頼を実施しました。

また、今年度の新たな取組としてポスティング時に社協パンフレットを同封し、特に若年層への社協のPRも合わせて行いました。

会費種類	協力件数	実績額	会員拡充への取組
一般会費 1世帯 1,500円	16,678世帯 (R4年間 16,887世帯)	24,970,750円 (R4年間 25,330,250円)	自治会未加入世帯ポスティング 2,473件 (加入実績 27世帯)
賛助会費 1口 3,000円	13件 (R4年間 15件)	66,000円 (R4年間 72,000円)	
法人会費 1口 5,000円	157件 (R4年間 119件)	1,005,000円 (R4年間 745,000円)	新規依頼 111件 (加入実績 16件)
合計		26,041,750円 (R4年間 26,147,250円)	

【成果と課題】

新規事業所を訪問し依頼する、ホームページで法人会員募集を行うなどの取組を行い、前年度より 38 件、260,000 円増加しました。

自治会長向けに会費の収支が分かる資料を作成したところ、分かりやすいと好評でした。

会費の使い道については、市民から理解が得られるような広報活動が必要です。

また、一般会費の金額について高いというご意見をいただいているため、金額の妥当性について検討します。

② 組織のあり方について検討

【年度計画】

今取り組んでいる事業やこれから取り組むべき事業、職員及び役員等の定数などについて検討を行います。

丹波市社協が行っている諸事業が、市民に対し地域福祉活動への参加などの行動につながっていることへの割合を測り、達成指標として確立していくための方法について研究を行います。

【実施状況】

財務等検討部会を開催し、組織改編について検討を行いました。

まずは令和6年度から職員の業務効率化を図り、職員が効果的に地域支援に関われるようにするため、支所の体制を圏域化する検討を行いました。

併せて、理事会や評議員会でも組織改編について意見を伺うとともに、自治会長や自治協議会長、各地域の支所運営協力委員長などへ丁寧な説明を行いました。

職員研修では「地域福祉の成果について考える」をテーマに実施し、定量評価等を学び

ました。

【成果と課題】

めざすべき社協の組織体制を明確し、支所の圏域化を決定しました。

組織改編に伴い、支所運営協力委員会を廃止したため、地域の声を聞くことを積極的に行う必要があります。引き続き地域福祉活動の適正かつ効果的な達成指標の研究を行います。

③ 善意銀行

【年度計画】

社協の地域福祉事業や生活に困っておられる方々への支援策を中心に、引き続き市民の皆様の善意を有効に届けていきます。

【実施状況】

善意銀行へ預託いただいた物品や金銭は、子ども食堂などの地域活動団体や市内福祉施設へお届けしました。また、フードドライブ事業や生活に困っておられる方等への支援に活用しました。

○金銭 預託：136件 3,367,640円（内10万円以上の預託13件）

払い出し：睦の家、市内子ども食堂、兵庫県北摂・丹波地区里親会

○物品 預託：107件（米、野菜、介護用品、食料品等）

払い出し：生活困窮者、フードドライブ事業、市内福祉施設等

【成果と課題】

お寄せいただいた善意を広く住民の皆様へ効果的に還元できるような仕組みを検討し、令和6年度に実施予定です。

④ 第三者委員

【年度計画】

福祉サービスの提供に対する苦情への適切な対応により、社協の信頼や適性の確保を図るため、第三者委員を設置し公表します。

利用者の満足度の向上と適切かつ良質な福祉サービスを提供するため、自己評価に加え利用者からの意見を基に第三者委員の意見を反映しながらサービスの質の改善に努めます。

【実施状況】

苦情受付、解決のルールを明確にし、苦情が福祉サービスの向上につながるよう改善を行いました。第三者委員に報告を要する苦情は発生していませんが、受けた苦情は適宜支所長会や経営会議で共有しました。

また、第三者意見交換会では、今年度に受け付けた苦情とその解決状況を第三者委員と管理職で共有を図り、よりよい福祉サービスの向上に寄与することをめざし、意見交換を行いました。

【成果と課題】

他部署の受けた苦情を共有することで、自分の部署での対応を振り返る機会になり、苦情への対応方法などを共有することができました。

⑤ 福祉センター等の指定管理

【年度計画】

丹波市福祉センター条例に基づいた指定管理者の協定を、令和4年度から令和8年度まで柏原福祉センター、春日福祉センター、山南福祉センターについて締結しました。令和5年度においても適正な管理運営に努めます。

【実施状況】

地域の福祉向上及び福祉活動の促進を図る拠点として、柏原福祉センター、春日福祉センター、山南福祉センターの適正な管理運営に努めました。

自動火災報知機や非常用放送設備の更新工事等の緊急を要する工事、及び施設の老朽化による建物の修繕や設備の更新を計画的に実施しました。

【成果と課題】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、貸室の利用団体が徐々に戻りつつあります。

老朽化や経年劣化による予想外の修繕工事にも適切に対応する必要があります。

⑥ 支所事務所の移転

【年度計画】

青垣支所は青垣住民センター、市島支所はライフピアいちじまへ移転し、令和5年5月8日から業務を開始します。

【実施状況】

予定通り令和5年5月8日から青垣住民センター、ライフピアいちじまへ移転し、業務を行いました。

【成果と課題】

社協青垣支所は、市役所青垣支所や青垣子育て学習センターと同じ建物内になったことで住民とのコミュニケーションが増え、従来交流がなかった子育て世代ともつながりができつつあります。また光熱水費が大幅に下がり、経費節減につながりました。

市島支所は、移転したことで事務所が広くなり、懇談スペースを設けることができました。その結果、来客者から話を聞く機会が増えました。

2) 他機関との協働推進

① ほっとかへんネット丹波（丹波市社会福祉法人連絡協議会）

【年度計画】

従来から進めている福祉人材確保の実践を含め、会員間の情報共有や担当者研修など様々な内外のつながりが持てるよう取り組み、社協事業とも連携しながら、可能なところから地域貢献策を実施します。

【実施状況】

8月と12月の「しゃきょうたすけあいフードドライブ」に各会員法人に協力を依頼し、複数の法人から協力を得られました。併せて市内のフードドライブの状況を各会員法人に伝え、困窮対応への関心につながるよう取り組みました。

福祉人材確保では、「社会福祉法人就職フェア」のチラシを令和3・4年度の介護初任者研修の修了生に送付しました。フェアは過去最高の来場者数になり、就職につながる成果が出ました。

また、武庫川女子大学のソーシャルワーク実習を受入れ、福祉人材の育成にも取り組みました。

実務担当者研修会は人材確保や災害対応、地域支援活動について意見交換を行い、役員研修会はBCPの作成に関連して災害時の情報共有や取組について考えました。

【成果と課題】

フードドライブへの参加法人が少なく、地域貢献（貧困対策）に協力する機運の醸成が課題となっています。

就職フェアは就職にもつながり成果がありましたが、更なる改善を行い新卒者が多く参加できるものにしていく工夫が必要です。

福祉人材確保は就職フェアだけでなく、福祉学習など地域貢献活動にも幅広く展開できるため、社協の講師に各会員法人になってもらうことなどでの協働が期待できます。

② 企業・団体等との協働

【年度計画】

様々な企業・団体等と連携・協働し、それぞれの強みを活かした成果が発揮され、Win-Winの関係でつながれるよう研究しながら取り組みます。

【実施状況】

「コープこうべ」とは、フードドライブや地域つながるミーティングやボランティア市民活動センター運営委員会等を通じて、地域づくりの方向性が同じであることを確認しました。

「(株)大森屋」及び「NPO法人愛媛eワーク」と食支援の協定を結び、フードドライブに食料を届けてもらいました。

「丹波市子ども若者サポートセンター」と就労支援を通じて協働しました。

○ コープ柏原店の常設フードドライブ収集品受取り

支所	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計
回数	10	7	4	2	8	0	31
品数	152	173	82	44	136	0	587

○ 支援物品受取り

・コープこうべ第4地区本部

回数	受取物品
3	兵庫米（無洗米）2kgパック32袋、食料品60点（概数）

- ・特定非営利活動法人 e ワーク愛媛

回数	受取物品
1	食料品 8 箱

- ・株式会社大森屋

回数	受取物品
12	海苔、ふりかけ等 2,514 点

- フードドライブ収集品受取り

- ・株式会社タンバンベルグ

回数	受取物品
3	食料品 107 点

- ・丹波市役所

回数	受取物品
5	(くらしの安全課 3 回) みそ汁 100 食、卵スープ 100 食、長期保存パン 100 食、カレー 25 食 (職員 2 回) 食料品 300 点(概数)

- ・丹波県民局

回数	受取物品
2	食料品 120 点(概数)

- 社協支所常設フードドライブ支援

支所	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計
回数	57	107	28	62	91	33	378
品数(概数)	1,020	810	340	760	1,230	400	4,560

【成果と課題】

今後、ボランティア育成やフードドライブ、災害支援などの他分野で企業・団体と協議する場を設けて行きたいと思います。

3) 職員研修

① 職員研修

【年度計画】

令和4年度に策定した人材育成研修計画に基づき、職員の資質向上を目指した研修に取り組みます。

【実施状況】

より効果的に研修の機会を確保し、職員の人材育成に資するために職員研修要綱を改正しました。

令和5年度研修計画に基づき、外部研修の受講及び内部研修を実施しています。必須研修である人権学習会(63名参加)ではひきこもり当事者やその家族について学び、交通安全研修(95名参加)では安全運転の意識を高めました。

【成果と課題】

職員個々の研修意欲にばらつきがあるため、次年度からは研修受講回数目標値を設定します。

② 広報研修

【年度計画】

社協の認知度を上げ、社協事業への理解や協力を得られるよう職員の広報スキルを育成します。

【実施状況】

オンライン等での広報研修を2回実施しました(希望者のみ参加)。

広報委員会で協議し、レイアウト、写真の撮り方、取材方法等の研修を実施しました。

【成果と課題】

研修により、職員の広報スキルの向上が図られました。

広報紙「ふくしほっと通信11月号(115号)」が「全国社協広報紙コンクール2023」で優秀賞を受賞しました。

③ 階層別・職種別研修

【年度計画】

オンライン研修を含め、職種別に応じた専門分野での研修に積極的に参加すると共に、独自に研修の機会を設け個々のスキルアップを目的に実施します。

【実施状況】

研修受講報告書により研修内容を所属内で共有することで研修の効果を高めるとともに、研修履歴の蓄積により各職員の個々に合った育成に繋げるようにしています。

担当業務に関する知識を身に着けるため、会計研修や社会保険に関する事務講習会に参加しました。

階層別研修では、事務執行の適正化に向けた実行計画に基づき、社会福祉法人会計の基礎研修を実施しました。

相談支援事業所改善計画の一環として、市内の相談支援事業所職員を対象とした研修会を主催し、請求事務に関する学びの機会を設けました。

【成果と課題】

職員個々のスキルアップを目指し、階層別に習得すべき研修を確実に受講できるようにする必要があります。

2. 地域福祉事業

1) 地域支援

① ふれあい・いきいきサロン活動支援

【年度計画】

地域のつどいの場づくりを通じて、高齢者等の生きがいづくりを支援
助成金額・要件の見直し
準備費・活動費の助成
開催に関する相談・助言
フレイル予防に力を入れた取組

【実施状況】

助成金交付申請で新規の申請が1件ありました。

また、コロナ感染も落ち着き、各自治会のいきいきサロンも再開されています。

サロン開催時に出張福祉教室を開き、フレイル予防や熱中症予防、認知症などの話を行いました。講話だけでなくレクリエーションを取り入れることで、楽しく学べるよう工夫しています。

【成果と課題】

開催頻度が減少傾向にあるため、無理なく活動を継続してもらえるよう細かな相談対応や出張福祉教室、レクリエーション講師等を活用してもらう呼びかけが必要です。

地域活動を取材し、広報紙等で掲載することでボランティア自身の活動継続の意欲につながっていますが、反面、ボランティアの高齢化、地域の理解不足、参加者の偏りなどの課題があり、中止するサロンもあります。

また、支所業務の都合で、サロンへの訪問が思うようにできていない課題もあります。

② 子ども食堂等の運営支援

【年度計画】

子ども食堂等が円滑に運営され地域に定着するよう支援
広く市民に事業啓発・PR
安定運営のための助成金獲得のアドバイス
ネットワーク会議の開催

【実施状況】

子ども食堂に関する助成金情報について、支所を通じて情報を必要とする子ども食堂へ情報提供を行いました。また、子ども食堂に積極的に参加し、支所通信などで広報しました。

柏原地域では新井自治協議会主催で子ども食堂運営協議会が開かれ、柏原支所職員が協議に参加し、開催に向け運営支援を行いました。

氷上地域では中央、沼貫、幸世地区とも月1回のペースで開催されています。

山南地域では「こども食堂支援センターむすびえ」の主催研修に支所職員が参加し、こどもの食支援に関わる情報の入手を行っています。

【成果と課題】

活動を継続されている子ども食堂は常連もでき、たくさんの参加者となっています。

助成金に頼らない自主運営ができる体制づくりについて話し合いを重ねて実践されているところもありますが、食材費等の高騰により運営が難しくなる可能性があります。

③ コミュニティカフェの運営支援

【年度計画】

地域のつどいの場づくり、支えあい体制の構築

カフェ用具の貸出を行い、自治会単位でのコミュニティカフェの運営を支援

【実施状況】

カフェ用具貸出7件（青垣3、春日3、市島1）

他機関との連携により地域のつどいの場でカフェを開催しました。

【成果と課題】

貸出し実績は少ない状況です。

要因として、これまで職員が出向いていたことも関係していると思受けられますが、カフェ用具の貸出が出来ることを周知していく必要があります。

カフェの集まりがサロンを始めるきっかけとなったところもあり、また男性も参加しやすい面もあり、今後も継続支援していくことが必要です。

④ 福祉用具・備品の貸出し

【年度計画】

個人・学校の福祉学習体験・サロンなどつどいの場に貸出し

車いす・点訳用品・疑似体験学習用品

レクリエーション用品

【実施状況】

事業の中止も少なくなったことで敬老会や夏祭りなど、多くの用具の貸出があり、大型のレクリエーション用具の貸出もありました。

車いすの貸し出しは通院などが多く、数日で返却される状況です。

(延べ貸出し回数)

貸出し場所	本所	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	計
車椅子	0	19	47	5	27	12	16	126
レクリエーション用具	2	107	153	37	229	135	82	745
福祉体験用具	0	4	33	4	8	6	9	64

【成果と課題】

福祉学習等で使用する福祉体験用具(子ども用車いす、白杖、アイマスク、点字版、エルダートライ等)は、まとまった数が必要となる場合もあり、各支所で管理しているものを集めてくる必要があるため、効率的な管理方法の検討が課題です。

また、レクリエーション用具の経年劣化が進んでおり、必要性を見極めながら計画的な修理・更新を検討する必要があり、屋外で利用できる用具の希望もあります。

⑤ 出張教室

【年度計画】

福祉学習・社協活動啓発

出張教室の周知

フレイル予防に力を入れた取組

【実施状況】

丹波市民生委員・児童委員協議会障がい者部会の研修会にて、高齢者疑似体験、ボッチャ、車いす体験を柏原福祉センターで実施しました。

また、企業、高校、自治会、サロンなどでも出張教室を実施しました。

開催に際しては、主催者から参加者の構成や要望等の事前確認を丁寧に行い、参加者にあった福祉教室を、ゲームや手遊びも交えながら参加型の内容を組み立てています。開催の様子を支所通信等に掲載して広く周知も行いました。

地域	延べ開催回数	延べ参加人数	前年度同期	
			延べ開催回数	延べ参加人数
柏原	7	166	7	122
氷上	11	274	5	54
青垣	10	204	13	185
春日	8	130	13	372
山南	2	32	6	139
市島	5	158	7	85
本所	1	50	0	0
計	43	982	51	957

【成果と課題】

丹波市民生委員・児童委員協議会障がい者部会では初めての出張ふくし教室であり、楽しんで学んでいただくことができました。また、多くの民生委員児童委員へ出張ふくし教室の周知をすることができました。

サロン等でフレイル予防や認知症についての福祉教室を多く行うことが出来ました。

地域で開催する際は、同じ話ばかりでは飽きられてしまうため、職員で数パターンの内容を作っておく工夫など、依頼者に合わせた資料作りが必要です。

⑥ 生活支援体制整備事業

【年度計画】

地域における支えあい体制の構築

地区推進会議（第2層）の創設支援・運営支援

丹波支えあい推進会議（第1層）の運営

くらし応援隊の養成・派遣

丹波市ふだんのくらしサポートセンター（通称：ふくサポ）の運営

よろずおせっかい支縁センターの運営

よろずおせっかい相談所の地区設置支援

【実施状況】

丹波支えあい推進会議（第1層協議体）を4回開催し、会議の目的と委員の役割を明確にし、生活支援体制整備事業に推進における悩み等の意見交換を実施しました。

各地区の支えあい推進会議（第2層協議体）は、新たに5地区（幸世、遠阪、国領、久下、小川）で設置され、市内25地区の内22地区で協議体が設置されました。

各地区の支えあい推進会議へは、支所に配置している6人の地域支えあい推進員（生活支援コーディネーター）が継続的に支援しています。

推進会議が未設置の地区に対しても、地区役員等と意見交換を行いながら設置に向けた取組を行っており、キーパーソンを見つけるために昨年度より各地区において地域活動者交流会を継続して開催している地域もあります。

また、くらし応援の運営として、ケアマネジャーからの依頼を受け、依頼会員との面談・くらし応援隊の派遣、調整業務を行いました。

○丹波支え合い推進会議（第1層協議体）の開催状況

開催日	会議内容
6月29日	昨年度の振り返り、各地区推進会議の現状、意見交換（会議の方向性、委員が果たす役割の共通認識）
8月28日	事業実施状況、前回会議の振り返り、意見交換（事業推進上の課題の共通認識、地域支えあい推進員が直面している悩み）
11月1日	事業実施状況、前回会議の振り返り、意見交換（事業推進上の課題解決に向けて）
2月2日	事業実施状況、前回会議の振り返り、意見交換（事業推進上の要点、次期会議の方向性、次期業務委託の取組の柱・取組目標）

○支えあい推進会議（第2層協議体）の設置状況

地域	地区	協議体名称	設置時期	主な委員構成
柏原	崇広	柏原地域支えあい推進会議	平成30年8月	地域生活を考える勉強会有志、自治会長、自治協議会役員、民生委員・児童委員
	新井			
氷上	中央	中央地区「和」サポート会議	令和元年5月	自治振興会、地域づくり福祉部、成松連合区副自治会長、親父腕まくりの会会長、就労支援事業所理事、有志、西部地域包括支援センター
	生郷	生郷地区支えあい推進会議	令和3年11月	自治振興会、自治会長、民生委員・児童委員、民生児童協力委員、主任児童委員
	葛野	かどの地区生活支援推進会議	平成30年1月	自治振興会、自治会長、民生委員・児童委員、民生児童協力委員、主任児童委員
	沼貫	つながろうぬぬぎ会議(名称変更)	令和2年1月	自治振興会、自治会長、民生委員・児童委員、西部地域包括支援センター
	幸世	ほっこりさちよサポート会議	令和5年7月	自治振興会、地域づくり運営委員会正副委員長、自治会長会正副会長、民生委員・児童委員、活動支援者、ボランティアグループ正副会長、西部地域包括支援センター
青垣	佐治	SAJI ささえあい推進会議	令和元年6月	メンバーの再編を提案中
	芦田	芦田支え合い推進会議	令和2年7月	自治振興会、福祉委員、民生委員・児童委員他
	神楽	神楽支えあい推進会議	平成31年4月	一般財団法人理事
	遠阪	TS(遠阪支えあい推進)会議	令和6年2月	自治協議会・民生委員・児童委員、民生児童協力委員、ボランティア
春日	黒井	黒井地区福祉支えあい推進会議・意見交換会	平成30年1月	自治協議会、自治会長会会長、民生委員・児童委員
	春日部	春日部地区支えあい組織づくり委員会	平成28年12月	自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員
	大路	大路地区地域福祉委員会	平成30年7月	まちづくり委員、自治会長、福祉委員、男女共同参画委員、民生委員・児童委員、校区事業推進部会、民生福祉部会、自治協議会
	国領	国領地区支えあい推進会議	令和5年8月	自治会長、民生委員・児童委員
山南	久下	久下地区自治会長・民生委員合同会議	令和5年9月	自治振興会、自治会長、民生委員・児童委員

	小川	小川地区支えあい会議（仮称）	令和6年2月	有志
市島	竹田	竹田地区支えあい推進会議	平成29年8月	自治振興会、福祉委員
	前山	いつせ支えあいの会	平成29年3月	自治振興会、民生委員・児童委員、ボランティア、老人クラブ、更生保護女性会
	吉見	吉見地区生活支援サービス推進会議	平成29年9月	自治振興会、民生委員・児童委員、福祉委員（副自治会長兼務）、ボランティア、男女共同参画委員、介護保険事業所、有識者
	鴨庄	鴨庄地区地域支援会議	平成29年2月	自治振興会、民生委員・児童委員、福祉委員（自治会選出者）
	美和	美和地区生活支援サービス推進会議	平成29年9月	自治振興会、自治会、民生委員・児童委員、民生児童協力委員、一般

○くらし応援隊登録者数（人）

地域	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	計
協力会員	4	12	6	10	10	7	49
依頼会員	4	9	6	9	5	7	40

○ふだんのくらしサポートセンター利用回数（回）

目的	掃除	洗濯	買物	調理	ごみ出し	その他	計
回数	1,079	48	310	11	254	48	1,750

○よろずおせっかい相談所つなぎ設置数（地区）

地域	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	計
設置数	0	0	4	2	1	3	10

【成果と課題】

丹波支えあい推進会議では、会議目的と委員の役割を明確にすることで、今期の目的でもある第2層協議体の設置や、停滞している協議体への支援について協議が進みました。

各地区の支えあい推進会議においては、地区によって委員構成や地域課題などの特色が異なるため進め方に違いがありますが、支えあいの地域づくりのために必要な話し合いを重ねられています。

また、会議運営を地区で自主的にされるところが出てきており、支えあいの体制づくりが大事なことであるという認識が広まりつつあります。

課題としては、地区によっては地域資源の発見があまりできておらず、地区情報の整理が出来ていないこと、集いの場などを訪問し高齢者から直接ニーズを聞き取れていないこと、よろずおせっかい相談所の設置の呼びかけが出来ていないこと、などがあります。

⑦ 地域福祉推進支援事業

【年度計画】

地域における福祉学習等事業支援

本事業を活かした「地域における担い手づくり」の推進

コロナ後のつながりが再構築できる取組の助言、推進

【実施状況】

22地区で事業に取り組まれました。

事業内容は、子ども関係の事業による多世代にわたる事業や、自治協議会（振興会）カフェ、地域資源を活用した映画観賞会、子ども食堂の支援など多種多様です。

また、計画段階から自治協議会（振興会）と事業目的や手法について確認を行い、より効果的な事業になるよう事前に協議を行いました。

地域	実施組織	申請額(円)	事業内容
柏原	柏原自治協議会	107,500	子育て交流広場、支えあい推進会議
	新井自治協議会	200,000	新井塾、夏休みチャレンジ学習、にっこフェスティバル、新井地区文化創作展
氷上	中央地区自治振興会	197,981	地区住民の交流事業、高齢者の為の消費生活講座、コミュニケーション麻雀教室、にっこキッチン子ども食堂
	生郷自治振興会	155,000	生郷カフェ「いっ茶丹」、支えあい推進会議主催福祉講演会・研修会
	葛野報徳自治振興会	21,733	支えあい推進会議研修会
	沼貫地区自治振興会	200,000	住民交流を兼ねた高齢者お昼の集い
青垣	佐治地域自治協議会	122,000	来楽サロン、高齢者お昼の集い、支えあい推進会議
	芦田自治振興会	161,000	支えあい推進会議、高齢者お昼の集い、
	一般財団法人神楽自治振興会	167,303	高齢者お昼の集い、夏休みしぐら教室、神楽百歳体操、ふれあい喫茶
	遠阪自治協議会	98,000	百歳体操後のつどい、防犯講演会、子育てカフェ、住民座談会、サロン・囲碁
春日	黒井地区自治協議会	50,108	シニアヌーンコミュニティサロン、健民グラウンドゴルフ大会、支えあい推進会議
	大路地区自治協議会	72,238	福祉カフェ「笑い与健康」講座
	国領地区自治協議会	85,000	国領ふるさとカフェ、リ（クリスマス会）
山南	上久下地区自治協議会	55,880	独居高齢者への友愛弁当・おやつセット宅配・見守り活動
	久下自治振興会	54,534	久下小物づくり教室、健康ウォーキング講座
	小川地区自治振興会	195,701	フラワーアレンジメントセミナー、健康ふれあいフェスタ、ノルディックウォーキング
	ふるさと和田振興会	168,800	子育てママのリフレッシュ交流会、健康登山、元旦ジョギング、よろずおせっかい相談所
市島	竹田地区自治振興会	154,174	高齢者お昼の集い、支えあい推進会議
	前山地区自治振興会	200,000	オアシスいつせ交流サロン、綿の実会ガーデニング活動、支えあい推進会議
	吉見地区自治振興会	140,000	高齢者お昼の集い、支えあい推進会議
	鴨庄地区自治振興会	179,000	支えあい推進会議、高齢者お昼の集い、いきいき百歳体操、ふれあいカフェ、「憩いサロン」の活用、なんでもよろず相談サテライト
	美和地区自治振興会	200,000	いきいき美和の会、ふれあいの会
合 計		2,985,952	

【成果と課題】

独居高齢者や子育て世代など様々な世代を対象とした地域活動に活用されています。
また、コロナ後のつながりの再構築に向け、地域に定着した継続的な事業の他、新たな事業にも取り組まれています。
しかし、従来からの事業に活用されることが多く、課題解決のための新たな事業に活用されることが少ないといった課題や、地区によっては福祉への意識や取組への意識の違いに差があることが見受けられます。

2) 当事者支援

① ひきこもり等社会的孤立にある方への支援

【年度計画】

社会的孤立に対する理解を深める
民生委員児童委員・福祉委員に対する研修の実施
ひきこもり相談窓口や支援機関等の案内パンフレットの作成
関係団体等との協議

【実施状況】

最近の傾向として、中年の男性のひとり暮らしで生活困窮者や仕事をしていない人の相談や情報が入ってくるようになりました。生活困窮者の中には、ひきこもりの子がいる世帯もあり、問題が複雑化しています。

昨年度に実施したひきこもり問題の研修を受け、丹波市子ども・若者サポートセンターへ支所通信を毎月届けることや、社協の軽作業を依頼するなど、社協とセンターとの連携を構築しました。

また、ひきこもり相談窓口や支援機関等の案内パンフレットの作成し、丹波市社会福祉課福祉総合相談係と密に連絡し合いながら各所に繋ぎ、支援が途絶えることがないようにしました。

啓発活動としては、「ひきこもり学習交流会」をひきこもり学習会実行委員会と共催し、民生委員・児童委員をはじめ、広く市民へ周知しました。

【成果と課題】

ひきこもりの支援者が集まる場を市関係部署や支援団体に呼びかけ、「ひきこもり等支援者連絡会（仮称）」を発足させ、連携強化に向けて課題を共有しました。

相談者への一方的な情報の提供は可能ですが、問題解決には至らないことが多く苦慮している実情があります。

② しゃきょうたすけあいフードドライブ事業

【年度計画】

生活困窮の方等の食料等支援
食料品、日用品を希望者に配布
集荷、仕分けボランティアの募集
支所常設窓口の設置啓発

【実施状況】

生活困窮者への食糧支援を、常設フードドライブと年2回の「しゃきょうたすけあいフードドライブ」で実施しました。

常設のフードドライブでは、福祉委員会や民児協定例会にて常設窓口の設置啓発を行い、物品の収集や必要な方への提供を呼びかけ、各支所合計378回、約4,570品目の支援をしました。

「しゃきょうたすけあいフードドライブ」では、合計268世帯(690人)に食糧支援を行いました。実施に際しては、集荷・仕分けのボランティアとして、県立氷上高校生及び丹波市子ども若者サポートセンターの利用者にお手伝いいただきました。

【成果と課題】

12月のフードドライブでは過去最高の応募件数となりましたが、本当に食糧支援を必要としている世帯が疑問に思われるケースもあり、実効性確保の課題があります。

また、常設のフードドライブでは、生活困窮者世帯の一時的な支援につながっているが、車上生活者や困窮から抜け出せない方への支援が常態化しており、市の福祉総合相談係と

も連携をしているものの、支援方法についての課題や、外国籍の方の本事業に対する理解度が不明で、生活状況の聞き取り等の意思疎通確保の課題もあります。

提供された食料品は、賞味期限内に配布するよう取り組んでいますが、企業から提供されるものは同一種で賞味期限が短いものもあるので、配布しきれない場合があります。

③ 新型コロナ貸付借受人への相談支援（ほっとかへんネットワークカー）

【年度計画】

生活の立直し支援
借受人の生活の現状把握
生活課題の整理
課題解決に向け社協内や他機関と情報共有
県社協との連携・協働

【実施状況】

コロナ貸付の猶予申請者からの生活状況の聞き取りなどが始まりましたが、相談件数が少ないため、借受人の生活状況の把握するためのアンケート調査や、生活を見直すための家計改善セミナーを実施しました。

【成果と課題】

コロナ貸付借受人や県社協生活福祉資金本則借受人、市社協福祉資金借受人、生活状況が改善しない人に対して、市行政各部所や支援団体と協議する場を設け、改善策を考えていくことが必要となっていますが、実施できていない現状にあります。

④ 団体事務支援

【年度計画】

・団体の事務に関する運営支援
・丹波市老人クラブ連合会、丹波市身体障害者福祉協議会、丹波市手をつなぐ育成会、丹波市婦人共励会の事務局支援

【実施状況】

丹波市老人クラブ連合会、丹波市身体障害者福祉協議会、丹波市手をつなぐ育成会の事務に関する運営支援を行いました。

丹波市婦人共励会は、昨年度末をもって解散されたため支援を終了しました。

【成果と課題】

各会とも新規会員が増えず高齢化が進み、事業開催が難しくなっている傾向があります。

⑤ 独居高齢者宛書状制作、発送

【年度計画】

手書き葉書による交流支援
・各支所で年2回実施（暑中見舞い・年賀状）
・対象：75歳以上の独居高齢者
・市内小・中・高校、ボランティア等に協力依頼

【実施状況】

民生委員児童委員協議会の協力により、訪問等で対象者の把握を行っていただいた名簿をもとに、ボランティアの方に葉書を書いていただいたものを発送しました。

地域	暑中見舞		年賀状	
	発送者数	ボランティア 延べ人数	発送者数	ボランティア 延べ人数

柏原	231	226	231	76
氷上	338	90	332	90
青垣	147	80	147	56
春日	265	10	259	10
山南	277	255	277	255
市島	196	50	181	50
合計	1,454	857	1,427	537

【成果と課題】

葉書の返事が返ってくるなど、一方通行ではあるが交流ができていることや、小学生や中学生、高校生のボランティア体験になっている成果があります。

小学生児童には暑中見舞いや年賀状を送る習慣を体験できる機会となり、また中学校生徒には他者への思いやりの心を育む機会となり、先生からは良い勉強になりましたとのお声を寄せていただいています。

独居高齢者名簿が現在は葉書の送付に留まっており、他へも活用することができないか検討する必要があります。

⑥ 見舞金（善意銀行）

【年度計画】

火災・水害等見舞い、火災等見舞金の支給

【実施状況】

見舞金支給は下記のとおりでした。

地域	区分	件数	金額(円)
柏原	火災見舞金	1	30,000
山南	火災見舞金	1	30,000
市島	火災見舞金	2	60,000
合計		4	120,000

【成果と課題】

金額は少額ですが、被災された方への支援になっています。

3) 子育て・教育支援

① 福祉教育助成事業

【年度計画】
福祉学習支援
小・中・高校等が企画する福祉学習の取組に対し助成

【実施状況】

助成金交付状況（合計 519,048 円）
・小中学校 22 校（27 校中）369,682 円
・高等学校 2 校（3 校中）100,000 円
・特別支援学校 1 校 49,366 円

車椅子 体験	高齢者 疑似体 験	視覚障 がい者 への理 解	聴覚障 がい者 への理 解	障がい 者への 理解	パラス ポーツ	交流	認知症 の理解	その他	合計
10	8	7	5	14	5	19	0	15	83

【成果と課題】

助成金申請状況では、小学校 2 校、中学校 3 校、高等学校 1 校から申請されていませんが、それぞれ学校においては授業や委員会、部活動等で福祉学習が行われています。
すべての福祉学習において経費がかかるという事ではありませんが、学校内での福祉学習担当者と助成金担当者との情報共有ができていないケースもあることが見受けられます。

② 福祉教育研修会の開催

【年度計画】
福祉学習支援
福祉学習担当教諭を対象とした研修会の開催

【実施状況】

研修会（福祉学習推進会議）
・実施日 8 月 23 日（会場 青垣住民センター体育館）
・内 容 福祉学習における障がい者スポーツについて
・参加者 20 名（市内小、中学校の福祉学習担当者）

【成果と課題】

今回、初めて障がい者スポーツをテーマとし、講義・実技を通して学ぶことで学習に取り入れるイメージをしていただきました。
また、具体的な指導法やツールの紹介があり、より実践につながる内容でした。
課題として、意見交換を取る時間ができず、参加者同士、参加者と社協職員のコミュニケーションが取りづらかったことが挙げられます。

③ 丹波市ファミリーサポートセンター

【年度計画】
子育て支援
市内に出向き新規登録と研修・交流の推進
今後の事業推進について丹波市及び関係 NPO との協議

【実施状況】

○登録会員数

依頼会員 118 名 協力会員…74 名 両方会員…31 名 計 223 名

新規登録会員 18 名

○交流会・講習会

各参加者数は予定数を確保できています。子どもの参加や託児利用も多く、3歳児以上の在宅児が減り、0～2歳までの子どもが中心で、月齢が小さい子どもが多い状況です。

交流会や講習会に参加していただくことで会員登録に結びつき、周知につながりました。また、子育て学習センター事業の行事等に参加し、ファミリーサポート事業内容の啓発を行い、周知することができました。

○活動実績 191 件

子どもの預かりの場所として、柏原福祉センター内の託児室や子育て関連の施設を利用した活動が多くなっています。送迎活動については、アフタースクールのお迎え、習い事の送迎となっています。

子育ての相談内容により、他の子育て支援や NPO 法人（一時預かり、病後児保育）など、必要な支援へつなげます。7 月には市の担当課である子育て支援課と実施状況等の報告をするとともに、課題等を話し合いました。

【成果と課題】

交流会や講習会を開催することで市民周知が進み、会員登録に結びついている成果があります。親子で参加できる交流会や無料の託児がある講習会は参加しやすく、今後も継続して開催していきます。

NPO 法人との連携や今後の方向性については市担当課と引き続き協議していきます。

依頼会員の増加により、協力会員の不足や高齢化が課題となっています。今後は協力会員の登録増加の周知を行い、安心・安全に活動できることを今後も継続していきます。

④ 認定こども園助成

【年度計画】

保育環境改善支援

保育活動に使用する備品購入などに助成

【実施状況】

市内認定こども園 13 園より申請があり、申請額は 643,000 円となりました。

助成先	申請額(円)
認定こども園ミライズにじ	50,000
認定こども園ミライズそら	50,000
認定こども園ふたば	50,000
認定こども園いくさと	50,000
認定こども園ぬぬぎ	50,000
認定こども園さちよ	50,000
認定こども園あおがき	50,000
認定こども園かすが花の子園	50,000
認定こども園かすが森の子園	50,000
認定こども園みつみ	50,000

認定こども園わだ	43,000
認定こども園あいいくの丘	50,000
認定こども園いちじまこども園	50,000
合 計	643,000

【成果と課題】

園児の成長や園内環境を整える一助になっています。

4) ボランティア活動・団体支援

① ボランティアグループに対する活動助成

【年度計画】

ボランティア活動支援

ボランティア・市民活動センター登録グループに助成

市内の企業に対する活動プログラム（福祉教育を含む）の作成

【実施状況】

ボランティア協会のイベント支援や助言を行いました。

登録グループの約半数が助成金の申請をされました。

助成先	グループ数	申請グループ数	助成額(円)
丹波市ボランティア協会	1	1	80,000
〃 協会各支部	3	3	240,000
〃 協会所属グループ	28	21	273,400
〃 協会未所属グループ	70	32	358,600
合 計	102	57	952,000

【成果と課題】

ボランティアグループにより、新型コロナウイルス感染症の影響の強弱が分かれています。施設訪問系ボランティアなどは、まだ活動が出来づらい状況にあり、他の活動に参加されるなどの工夫を促す必要があります。

昨年実施した福祉学習ボランティアは、各学校での支援に入ってもらうなど活動の場が広がっています。

市内企業に対する活動プログラムについては、丹波市ボランティア市民活動センターでの内容も踏まえ、今後検討していきます。

② ボランティアまつり開催経費の助成

【年度計画】

丹波市ボランティア協会加入グループの増加を図る

丹波市ボランティア協会支部に助成

ふくしまつりや福祉バザーとの共催検討

【実施状況】

ボランティアまつりは未実施です。来年は実施意向と聞いています。

各支部に助成金を支出しました。

【成果と課題】

丹波市ボランティアのつどいを開催され、ボランティアの横のつながりの強化が図れました。

③ サマーボランティア体験教室の実施

【年度計画】

夏休み期間中にボランティア活動体験

各支所で小・中・高校生を対象として実施

【実施状況】

○柏原支所

柏原中学校の生徒を対象に募集を行い、柏原子育て学習センターのイベント“みんなあつまれ！ちびっこ縁日であそぼ”の前日準備と、当日の運営のお手伝いを行いました。

した。

○氷上支所

自治振興会に依頼し、子ども食堂などの活動に中学生が参加しました。

○青垣支所

朗読ボランティア1回、体験と手話体験3回を実施し、昨年より学生の参加が増えました。

○山南支所

支所企画講座として開催したこども食堂に、調理・運営を行う小中学生の子どもボランティアを募集しました。

○春日支所

8月1日、8日に手話体験教室を開催しました。

○市島支所

8月に地域で開催されているカフェのお手伝いに参加しました。

【成果と課題】

○柏原 参加実人数が1名ではありましたが、自分から積極的に取り組まれました。楽しんで帰っていただき、ボランティア活動の楽しさを知ってもらえたのではないかと思います。

○氷上 地域のボランティアや高齢者、子どもたちとの交流ができました。子ども食堂では調理や配膳など、普段できないことも体験できました。

中学校に行きにくい生徒がボランティアと交流ができ、普段見せない姿が見られたようでありました。

○青垣 朗読CDの吹込みや当事者との手話体験ができる実践的な講座を行ってもらっており、参加した学生には好評でした。朗読や手話の必要性や身近に感じることができると、続けていく予定です。

○山南 自分の活動が誰かの喜びになることや、親や身近な人以外から褒められる体験を提供できました。

ボランティア体験者の増加のため、興味や関心事を調査する必要性があります。

○春日 手話を学びたいという児童が参加してくれたため、しっかりと学べる機会となりましたが、参加人数が少ないという課題があります。

○市島 ボランティアの受け入れ先を地域に依頼したことで、行く側と受入側の両方が喜んでいただきました。地域活動のお手伝いのようで、地域も温かい気持ちで学生を受け入れられました。体験後も地域の活動に参加しているようで、本人にとって良い体験となったことが感じられます。

④ 福祉団体助成

【年度計画】

団体運営支援

丹波市身体障害者福祉協議会、丹波市手をつなぐ育成会、丹波市婦人共励会、丹波市特別支援教育研究部ほか

【実施状況】

- ・丹波市身体障害者福祉協議会：200,000円
- ・丹波市手をつなぐ育成会：80,000円
- ・丹波市婦人共励会：解散のため助成なし
- ・丹波市特別支援教育研究部：120,000円

- ・かすがおもちゃライブラリーどりいむ：15,000 円
- ・山南おもちゃライブラリーびよんびよん：15,000 円

【成果と課題】

コロナで自粛されていた活動も再開し、昨年度は申請されなかった団体からも申請がありました。

⑤ ボランティア登録・派遣調整

【年度計画】

ボランティア支援

登録カードを整備し、スムーズなマッチングを目指す

コーディネート件数の把握

【実施状況】

ボランティア団体の新規登録は少ない状況です。

ボランティアのマッチングは主にレクレーションボランティアと行事主催団体で、今年度から福祉学習ボランティアの活動も増えました。

○市内のボランティアマッチング数 112 件【レク講師・学校系】

活動分野	登録団体数	登録人数
保健・医療または福祉の増進を図る活動	49	654
まちづくり活動	2	19
学術、文化、芸術、スポーツの振興を図る活動	28	351
環境の保全を図る活動	6	101
災害支援活動	0	0
地域安全活動	2	324
国際協力の活動	1	8
子どもの健全育成	7	96
情報社会	0	0
その他	3	27
合 計	98	1,580

【成果と課題】

ホームページでの広報不足が課題なので、登録カード記入や登録する利点、ボランティア活動に必要な情報を広報していきます。

⑥ 災害ボランティアセンター設置訓練の実施

【年度計画】

迅速な設置

災害ボランティアセンター設置訓練

【実施状況】

9月3日に丹波市立柏原住民センター等で開催された「兵庫県・丹波地域合同防災訓練」に参加し、県社協ひょうごボランティアプラザの参加協力を得て次の訓練を実施しました。

- ・センター開設までの手順確認
- ・活動要請把握、災害ボランティア活動希望者受入
- ・作業調整、オリエンテーション

- ・資機材貸与・回収・点検
- ・体調異変者対応
- ・活動報告受付、作業完了・継続仕分け、活動記録作成
- ・搬送物資受入（他機関関連訓練）

【成果と課題】

市社協の設置運営マニュアルに沿った訓練内容としたことで、作成書類の流れがマニュアルで想定しているものと実際の現場では合わないことや、作成書類の様式を見直す必要を確認することができました。

また、訓練は班編成を行って実施しましたが、事前の全体会議や班別の会議を行って詳細な手順確認を行ったことで、円滑に進めることができました。

⑦ 災害ボランティア支援事業

【年度計画】

被災地支援

被災地で活動するボランティアに対し助成支援

【実施状況】

支援実績はありませんでした。

⑧ ちーたん災害サポートネットとの連携

【年度計画】

災害時の円滑な連携と平時からの情報交換

災害ボランティアセンター設置訓練での連携・協働

【実施状況】

6月7日に参加団体の代表者が集まり、顔合わせと今後のつながり方等の意見交換を行いました。

【成果と課題】

本年度に社協で実施予定であった災害ボランティアセンター設置訓練への参加協力を想定していましたが、兵庫県・丹波地域合同防災訓練が外部参加はなく訓練実施機関のみで行うこととされたため、参加機会はありませんでした。

⑨ ボランティア講座等の開催

【年度計画】

- ・ボランティアの養成、福祉学習
- ・くらし応援隊養成講座（委託料：丹波市）
家事援助サービスの担い手養成
- ・福祉学習ボランティア養成講座
学校における福祉学習の実施を支える、お手伝いができる人を養成
- ・支所企画講座
各支所で講座を企画、開催
- ・サマーボランティア体験教室
（小・中・高校生） 夏休み期間中にボランティア体験の機会を提供（各支所ごとに開催）
- ・サロンボランティア交流会（研修会）
サロンを長く続けていただくため、ボランティア同士の情報交換を行う（支所ごとに開催）
- ・図書館サポーター養成講座（全2回）
図書館運営を手伝うボランティアを養成（丹波市立中央図書館との共催）
- ・手話奉仕員養成講座（入門課程）（委託料：丹波市）

簡単な手話を習得し、聴覚障がい者との意思疎通を図り、手話を言語として認識する
 ・手話奉仕員養成講座（基礎課程）（委託料：丹波市）
 入門課程修了者がさらに手話技術を習得し、さらに高度な技術習得につなげられる人材の養成

【実施状況】

講座名	開催状況
くらし応援隊養成講座	9月29日、10月12日 受講者27名（既登録者1名） ※子ども同伴の配慮が必要な方に個別で10/3に市島支所で受講対応 ※講座終了時の登録者6名 ・くらし応援隊の活動「ふだんのくらしサポートセンターについて」 ・福祉講演会「あなたが住みたいのはどんなまち??あなたにできる活動のヒント」 ・「傾聴・コミュニケーション講座」～よりそい、受けとめる傾聴～ ・映像で学ぶ認知症講座 ・現役くらし応援隊との交流会 ・事務説明 ・修了式
福祉学習ボランティア養成講座	3月15日 参加者19名（既登録者3名含む）、新規登録者12名 ・福祉学習サポーターって何?〈説明〉 ・実際にやってみましょう!〈実技〉①高齢者疑似体験②車いす体験
支所企画講座	（柏原支所）1月23日、2月1日 延べ22名参加 スマホの使い方講座（ボランティアフォローアップ） （氷上支所）12月26日 9名参加 フラワーアレンジメント講座 （青垣支所）12月12日 6名参加 消しゴムはんこ教室 12月25日 17名参加 フラワーアレンジメント講座 （山南支所）8月10、20日 こども食堂開設きっかけ事業 ボランティア8名、参加者26名 （春日・市島支所）2月20日、28日（合同開催） 67名参加 ふくし研修会「みんなで考える 地域の見守り」
サマーボランティア体験教室	（柏原支所）8月2日、3日 延べ2名参加 柏原子育て学習センターイベントへの参加 （氷上支所）7月24日～8月23日のうち8日間 延べ31名参加 沼貫地区・中央地区・幸世地区のたんば塾や、子ども食堂へボランティアとして参加 （青垣支所）7月25日、8月1日、8日 延べ21名参加 手話体験、視覚障がい者に向けた朗読体験 （春日支所）8月1日、8日 延べ7名参加 手話体験教室 （山南支所）8月10日、20日 延べ4名参加 こども食堂でボランティア体験 （市島支所）7月25日～8月4日のカフェ開催日 2名参加 地域のカフェへボランティアとして参加

サロンボランティア交流会 (研修会)	(柏原支所) 3月8日 6名参加 (5サロン) ライフキネティック研修、グループワーク、助成金の案内 (氷上支所) 7月6日 42名参加 (24サロン) 椅子ヨガ、交流会 (青垣支所) 10月30日 17名 (6サロン) ライフキネティック研修、グループワーク、助成金の案内 (山南支所) 2月21日 39名参加 (27サロン) サロン活動の事例発表、作業療法士による健康運動、脳トレ紹介 (春日・市島支所) 8月29日、30日 (合同開催) 42名参加 (30サロン) ライフキネティック研修、グループワーク、助成金の案内
図書館サポーター養成講座	5月28日、6月3日 (会場 丹波市立中央図書館) 受講者3名、登録者2名 ・図書館の基本と役割、図書館の概要、ボランティア活動について、施設見学
手話奉仕員養成講座 (入門課程)	6月30日～11月24日 (毎週金曜日) 全20回の課程で開催 受講者21名・修了者20名
手話奉仕員養成講座 (基礎課程)	6月8日～11月30日 (毎週木曜日) 全24回の課程で開催 受講者16名・修了者15名

5) 情報提供・啓発活動

① 広報紙の発行

【年度計画】

市民に対し福祉情報を提供・活動を報告
ふくしほっと通信（奇数月・年6回発行）
ふくしほっとガイド（事業紹介・3月発行）
支所通信（毎月発行）

【実施状況】

ふくしほっと通信を奇数月に発行し、各地域に合わせた身近な情報として支所通信を定期的に発行しました。取材を通じて関係者と繋がりでき、新たな情報を得ることもあります。

広報委員会を2ヶ月に1回開催し、広報の内容や研修の企画を協議しました。

【成果と課題】

広報委員会を実施することで担当者だけの考えに偏らず、公平で多様な視点での意見が広報紙に反映できています。

全国社協広報紙コンクールで優秀賞を受賞し、多くの方にふくしほっと通信を知っていただくことができましたが、丹波市民にとって広報紙がどのくらい読まれているのか、実態が不明です。

また、地域福祉活動の情報を発信するだけでなく、福祉教育の一端を担うものとして発行することも重要です。

② ウェブサイト・SNS の運営

【年度計画】

迅速でわかりやすい情報提供
ウェブサイトの管理
Instagram・フェイスブックの定期更新

【実施状況】

社協ホームページを運営し、併せてフェイスブック、Instagramの定期更新を行いました。

【成果と課題】

各職員でホームページ更新ができるため、迅速に情報を掲載することが出来ます。ホームページが見づらいとの意見を聞いており、対応が必要となっています。

③ 福祉委員制度の周知と強化

【年度計画】

市民に対し福祉委員の役割を周知し、新たな活動の位置づけ
役割を広報紙やネットで啓発
自治会とのパイプ役としての位置づけ
各支所で統一研修の実施

【実施状況】

○柏原、山南支所

福祉委員活動シートの記入依頼や名札の配付を通じて、積極的な活動を促しています。第1回委員会では、統一研修として「認知症の理解と地域の見守り」について学びました。第2回委員会では、グループワークとして「上半期の活動の振り返りと共有、下半期の活動」について話し合いを行いました。

○氷上、青垣支所

福祉委員会では、必ず研修内容を取り入れるように心がけ、第1回委員会は西部包括の「認知症について」の研修を行いました。毎回支えあい大切さについて話しており、集いの場の開設状況や支えあい推進会議で各地区がどのような事に取り組まれているかも伝えています。委員会の終わりには「よりそいシート」を記入してもらっています。福祉委員会にて委員名札作成の要望がありましたので、活動される際の身分証明として相手に安心してもらえようよう交付しました。

○春日、市島支所

2回開催しました。第2回委員会は、春日では2回に分けて開催し、市島では5地区の集いの場を会場として開催しました。

【成果と課題】

○柏原、山南支所

研修を通じて、福祉委員としての活動を促すことができました。福祉委員会で福祉委員について説明や研修を行っても意識改革は難しく、自治会の中でこれまで培われてきた福祉委員の役割を覆すことは容易ではないと感じています。また、自治会長や地域住民の福祉委員の役割（位置づけ）に対する認知度が低いことが伺えます。

○氷上、青垣支所

福祉委員から相談があり、集いの場の開設につながりました。研修内容を工夫することで、福祉委員の意識を上げるように心がけています。自治振興会によって福祉委員の活動の違いはありますが、福祉委員が支えあい推進会議のリーダーになり会議を進めるところもあります。

福祉委員の位置づけや民生委員・児童委員、民生児童協力委員との違い、連携の必要性が分かりづらいので、明確に伝える必要があります。

○春日、市島支所

福祉委員の役割、事業の説明、周知、理解に向けて話をしました。研修により認知症への理解が深まり、集いの場を会場とすることで地域福祉活動への理解に繋がりました。

支えあい推進会議のメンバーに福祉委員が構成されているところは、取組内容を理解していただきやすく、積極的に協議されています。

④ 社協ふくしまつりの開催

【年度計画】

- ・表彰並びに今日的課題や地域活動の啓発
- ・発表表彰、講演、活動発表など
- ・ボランティアまつりや福祉バザーとの共催検討

【実施状況】

令和6年3月9日（土）に春日文化ホールにて開催しました。午前の部の映画『ぼけますから、よろしくをお願いします。～おかえり、お母さん～』では約550名以上の方が鑑賞され、午後の部の表彰式と講演会では約350名以上の参加がありました。映画監督の信友直子さんの講演では、介護を1人で抱え込まない、地域のつながりの大切さについてお話いただきました。

【成果と課題】

屋外の障がい者就労支援事業所の販売ブースでは完売が続出し、会場ロビーの能登半島地震災害義援金にも多くの方にご協力いただきました。

⑤ 福祉バザー

【年度計画】

家庭用品の有効活用、福祉活動に参加できる場の提供と社協独自財源確保
趣旨の説明やPRを積極的に行い提供品の増を図る
開催方法の検討

【実施状況】

10月～12月に各支所単位で下記のとおり開催しました。

地域	実施日	収益額(円)
柏原	12月3日(日)	127,350
氷上	11月11日(土)	263,100
青垣	11月25日(土)	133,400
春日	10月28日(土)	205,700
山南	11月19日(日)	126,525
市島	11月5日(日)	155,665
合計		1,011,740

【成果と課題】

4年ぶりの開催となり品数は減りましたが、多くの来場者があり売上を得ることが出来ました。一部の会場では広い駐車場から階段を使用せざるを得ないので、足の不自由な来場者は不便な思いをされていました。

コロナ禍から冠婚葬祭の規模が縮小され贈答品が減少しており、各家庭からの持ち込み物品が集まりづらい傾向にあります。

提供品の収集について、米や日用品はフードドライブの収集期間と一部重なったため、持ち込みの際に確認が必要となりました。

⑥ 第71回兵庫県社会福祉大会開催

【年度計画】

県内の社会福祉関係者の顕彰
兵庫県社会福祉大会の主催地として、兵庫県・丹波市・県社協とともに開催

【実施状況】

10月25日(水)に県立丹波の森公苑にて開催しました。第1部は表彰式典、第2部は記念講演「ガンが教えてくれたこと～自分に向き合って見つけた夢」と題して木山裕策氏が登壇されました。会場では、共同募金の運動期間に関連してガチャガチャ募金の設置や、市内の障害者就労支援事業所の出店により来場者を歓迎しました。

【成果と課題】

丹波市の特産品等が当たる企画として実施したガチャガチャ募金は、丹波市を知っていただく良い機会になり、多くの方に楽しみながらご協力いただくことができました。その反面、共同募金の使途や目的がきちんと伝わりづらい面もありました。

3. 生活支援事業

1) 生活困窮者支援

① しゃきょうたすけあいフードドライブ事業（再掲のため記載省略）

② 生活福祉資金の貸付・償還相談支援

【年度計画】

- ・生活困窮の方等に対する支援
- ・各支所で相談・申請・償還の窓口業務実施

【実施状況】

従前の生活福祉資金の新規貸付は、教育支援資金4件、福祉資金1件の合計5件あり、貸付に至らない相談も多くありました。

また、複数の貸付を希望される方もおられ、困窮状態から抜け出せない方が表面化しています。

○生活福祉資金（コロナ特例）の貸付

資金種別	貸付年度	貸付件数	貸付金額 (千円)	償還時期到来後の区分(件数)					合計
				償還 期限後	償還 期限内	償還 免除	償還 猶予	償還 完了	
緊急小口資金	令和2年3月～ 令和4年9月末	401	73,270	3	183	189	19	7	401

資金種別	貸付年度	貸付件数	貸付金額 (千円)	償還時期到来後の区分(件数)				合計
				償還 期限内	償還 免除	償還 猶予	償還 完了	
総合支援資金 (初回)	令和2年3月～ 令和4年9月末	307	166,130	125	162	17	3	307

資金種別	貸付年度	貸付件数	貸付金額 (千円)	償還時期到来後の区分(件数)				合計
				償還 期限内	償還 免除	償還 猶予	償還 完了	
総合支援資金 (延長)	令和2年7月～ 令和3年3月末	149	81,390	71	73	5	0	149

資金種別	貸付年度	貸付件数	貸付金額 (千円)	償還時期到来後の区分(件数)				合計
				据置 期間中	償還 免除	償還 猶予	償還 完了	
総合支援資金 (再貸付)	令和3年11月～ 令和3年12月末	190	103,200	184	6	—	—	190

総貸付件数	1,047 件
総貸付額	423,990 千円

【成果と課題】

貸付以外の対策も含めた総合的な支援を要する方が多くあるため、多様な機関と協働し生活改善へ繋げる必要があります。

③ 福祉資金の貸付（善意銀行）

【年度計画】
生活困窮の方等に対する支援
各支所で相談・申請・償還の窓口業務実施

【実施状況】

今年度に入り困窮されている方の相談が急増している傾向にあります。

貸付に至らない方へフードドライブや就労へ繋ぐなどの業務が増えており、10月から「ほっとかへんネットワーク」で支所が同席して相談対応するようにしました。

前年度末貸付総件数	新規貸付件数	償還完了件数	期末貸付総件数
19	21	15	25

○地域別新規貸付件数

地域	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	計
件数	2	4	2	2	6	5	21
貸付金額	60,000	100,000	120,000	80,000	240,000	220,000	820,000

【成果と課題】

善意銀行を財源として、申請者への金銭による支援を行うことができます。

また、生活福祉資金（コロナ特例貸付）の終了後から、申請者の増加が見受けられます。

貸付だけでは対応できない方が増えており、給付型や物品援助の在り方を検討する必要があります。

市内で車上生活者が増えており、そのような方を助ける手立てが課題となっています。

④ 物品援助事業（善意銀行）

【年度計画】
金銭的支援が間に合わない時の一時的物品支援
各支所で相談・申請の窓口業務実施

【実施状況】

善意銀行を財源として、急を要する申請者への生活物品の支援を行いました。

地域	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	計
件数	0	1	2	2	0	0	5
援助額	0	9,870	69,125	4,670	0	0	83,665

【成果と課題】

フードドライブ事業の活用や社協の備蓄食料の配布等により、申請数は減少しています。

生活困窮者の課題が複合化しており、現状に見合った支援を検討していかなければ対応できない案件が増えているため、貸付、食糧支援、物品援助などの困窮者支援を根本的に見直し、総合的に支援できる体制づくりが課題です。

社協だけでは解決できない複合案件が多いため、関係機関と協働していく場を作っていく必要があります。

2) 権利擁護

① 日常生活自立支援事業

【年度計画】

必要な方への自立支援

認知症や障がいにより、判断能力に不安がある方で、意思表示ができる方を対象として、日常の金銭管理や福祉サービスの利用手続きなどを支援

【実施状況】

利用者については、それぞれの支援計画に基づき、福祉サービスの利用相談や日常的な金銭管理を行うなど、地域において自立した生活が送れるよう支援を行いました。

地域包括支援センターなど、関係機関からの相談に随時対応しました。

地域	利用者(人)	新規契約 (件)	解約(件)	生活支援員 (人)
柏原	8	1	0	3
氷上	4	0	1	2
青垣	0	0	0	2
春日	6	1	2	3
山南	1	1	0	1
市島	1	0	1	2
計	20	3	4	13

【成果と課題】

生活支援員の人員不足や高齢化が進み、新たな人材確保が課題となっています。

② 無料法律相談

【年度計画】

専門家による相談で、早期解決を目指す

弁護士による無料法律相談

年間 24 回実施予定

【実施状況】

毎月 2 回、地域を順番に開催しており、各回 6 名の予約枠が埋まることが多くキャンセル待ちが出ている状況です。

開設回数 24 回、延べ相談者数 131 名

【成果と課題】

気軽に専門家に相談できる機会が確保されていることは成果ですが、無断キャンセルが続くことがあり、相談枠が空いて無駄にならない工夫が課題です。

③ よろずおせっかい支縁センター・相談所

【年度計画】

社協、社会福祉法人、地域での相談窓口の設置

地域の相談窓口の設置

【実施状況】

○設置個所・相談件数

・よろずおせっかい相談所（社会福祉法人）：28 箇所 36 件

・よろずおせっかい相談所つなぎ（自治協議会・自治振興会）：10 箇所 1 件

社会福祉法人は普段の相談業務と、よろずおせっかい相談所との区別がつきにくい現状にあります。

【成果と課題】

どこに相談をしたらよいかが分からない方に対して、相談いただく場所になりつつあります。また、相談を受けることで、適切な機関に繋ぐことができます。

しかし、社協以外の社会福祉法人では業務に関すること以外での相談がない状況にあることや、よろずおせっかい相談所つなぎとして設置いただいている自治協等が相談所として機能しているケースが少ないことが課題となっています。

このため、市介護保険課、社協、社福連が協議する場を持ち、実効性のあるよろずおせっかい相談所になるようにしていく必要があります。

4. 地域支援目標

【年度計画】

①すべて

地域の課題や要支援者、生活困窮者の情報など、問題意識を持った情報収集を行い、他団体等と連携できるように取り組む。

様々な研修への積極的に参加し、スキルアップをする。

②自治会等

フレイル予防等のテーマとした取組を出張教室やふれあい・いきいきサロンで5箇所以上で開催し、人と人とのつながりの再構築を支援する。

ふれあい・いきいきサロンやいきいき百歳体操など、地域の集いの場への訪問を10箇所以上行い、運営支援や住民ニーズを把握する。

ふれあい・いきいきサロンやいきいき百歳体操の未実施自治会等に集いの場の重要性を伝え、カフェ用具の貸出し等を通じて立ち上げ支援を2箇所以上行う。

③自治協議会等

各地区拠点施設を毎月1回以上訪問し、コミュニティ活動推進員と地域情報の交換を行い、地区の現状を把握する。

地域福祉推進支援事業の活用を支援し、コロナ後のつながりを再構築する取組への助言や推進を行う。

地区支えあい推進会議の打ち合わせや会議に全て参加し、助言や支援を行う。

地区支えあい推進会議の未設置地区への立ち上げを支援し、1箇所以上設置する（該当支所のみ）。

④福祉委員・市民

福祉委員の活動シートによる見守り等の活動ができた委員の割合が50%以上になるように支援する。

支所通信等の媒体を通じて福祉委員の役割や活動を周知する。

⑤関係機関等

地域包括支援センター等と連携を密にし、他職種チームによる地域支援を推進する（各圏域）。

⑥ボランティア

ボランティアグループを3箇所以上取材し、支所通信等を通じて活動を周知する。

講座等をきっかけにボランティアを養成し、活動へつなげる。

ボランティア協会各支部の理事会に全て参加し、活動に必要な支援を行う（該当支所のみ）。

⑦小・中学校

福祉学習を支援するための講師派遣調整や体験教室等を2校以上行い、高齢者疑似体験や車いす、アイマスク体験は、積極的に福祉学習サポーターと協力して実施する。

⑧高校

街頭募金活動やボランティア活動等への協力を働きかけ、一緒に活動を行う。

⑨市民

アパート等の自治会未加入世帯へ社協の取組紹介と一般会費への協力を依頼するためのポスティングを行う。

支所通信を毎月発行し、自治会を通じた世帯への配布や地域の拠点施設等への設置により、地域福祉の情報を発信する。

社協ホームページやインスタグラム・フェイスブックを活用し、地域福祉の情報を毎月発信する。

⑩法人・企業等

積極的に事業所を訪問し、法人会費や賛助会費の新規開拓を行う。

○目標達成状況

対象	柏原支所	氷上支所	青垣支所	春日支所	山南支所	市島支所
①すべて	◎	○	◎	◎	◎	◎
②自治会等	○	○	◎	○	○	◎
③自治協議会等	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④福祉委員・市民	○	○	○	○	○	○
⑤関係機関等	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑥ボランティア	◎	○	△	◎	◎	◎
⑦小・中学校	○	○	○	◎	◎	◎
⑧高校	◎	○	◎	○	◎	×
⑨市民	○	○	◎	◎	○	◎
⑩法人・企業他	△	○	△	×	○	×

(評価指標)

◎：目標を達成

○：目標を7割以上達成

△：目標を4割以上達成

×：目標達成4割未満

5. 介護福祉サービス

- 1) 高齢者介護サービス
- 2) 障がい者（児）介護サービス

【年度計画】

市民に安心してサービスを利用していただくため、親切丁寧・安心・安全で質の高いサービスを継続して提供します。また、職員が働きやすい職場づくりに取り組み、率先して地域での在宅介護を推進します。

今年度においては業務改善計画に基づき、通所介護事業、訪問入浴介護事業等の事業運営のあり方について存続の検討を進めるとともに、地域包括支援センター再受託の検討協議を行います。経営会議は開催方法を変更し、管理者及び支所長を参集して開催することとし、必要に応じて部会担当理事の出席を求めることとします。

【実施状況】

訪問入浴介護事業は令和5年度末をもって市の運営補助金が廃止され、令和6年度以降の運営に大きな影響があることから、ホームヘルプセンター管理者がその管理業務を兼務し、訪問入浴介護と訪問介護を一体的に運営することで経営改善を図ることとしました。

また、平成31年4月に開設した東部地域包括支援センターについて、委託の最終年度でしたので再委託に向けて市の方針を確認しながら協議を行った結果、委託契約金額の見直しにも応じていただき、令和6年度から3年の委託契約を更新しました。

経営会議については協議に必要が生じた場合に支所長、担当理事の出席を求めることとしておりましたが、担当理事に出席していただく機会を持つことができませんでした。

○相談支援事業所過誤請求事案について

令和5年2月に受けた丹波市社会福祉課監査指導係による実地指導により過誤事案が確認されたため、平成29年度より令和4年度までの報酬請求について自主点検を行い、その結果に基づき過誤申立てを行いました。

誤って受けた報酬については、令和4年度分は同年度内に返還し、平成29年度から令和3年度分までの報酬については令和5年度（5月）に返還処理を行いました。また、平成29年度から令和4年度までの報酬請求について、再度自主点検を行った結果、新たな過誤事案を発見したため市監査指導係に報告しました。

これらの過誤事案について、令和5年5月から10月にかけて相談支援事業所に対する丹波市の監査が計4回実施され、11月に改善措置回答書の提出、3月に11月以降の取組の報告を行いました。

3) その他の事業

① 介護職員初任者研修（補助事業）

【年度計画】

介護従事者不足の解消のため、介護サービスの担い手を育成します。

【実施状況】

地域における介護の担い手の養成と就労支援を目的に開催しました。

○開催期間：5月14日～12月6日まで（講義・演習20日、現場実習2日）

○受講生：11名（うち10名が修了）

② 障がい者就労支援事業（委託事業）

【年度計画】

市役所春日庁舎内で「ちゃれんじスペース」を運営し、障がい者の就労を支援するため、自主製品の販路拡大と安定的な仕事を確保します。

【実施状況】

業務内容	実績額(円)	開設日数(日)
自主製品の販売（パン、手芸品、アクセサリ等）	453,020	151
喫茶	451,200	151
市役所内の軽作業	408,480	45
喫茶接客業務	10,560	6

③ 障がい者相談支援事業（受託事業）

【年度計画】

障がい者（児）本人や家族等を対象に、相談支援専門員が一般的な困りごとに必要な情報の提供、助言等を行います。

【実施状況】

○相談者別

障がいの種別	知的	身体	精神	発達	高次脳機能	難病	その他	合計
実人数(人)	13	5	33	1	0	0	1	53
延べ回数(人)	63	13	187	11	0	0	2	276

○相談内容別

支援内容	福祉サービスの利用等	障がいや病状の理解	健康・医療	不安の解消・情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係	家計・経済	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他	合計
実人数(人)	43	19	9	12	1	2	6	4	9	6	0	0	53
延べ回数(人)	123	41	13	31	2	4	11	5	27	19	0	0	276

【成果と課題】

前年度と比較すると、相談者別では精神障害や知的障害の方が増え、相談内容別では福祉サービスの利用等の相談が多く、延べ回数も28件増加しました。

相談内容は複雑化しており、事業所だけで相談に応じることが困難となっているため、他職種との連携を強化して対応しています。

6. 事業所別行動目標

今年度事業方針及び重点推進項目を達成していくため、下記の通り各事業所の具体的な目標を定めて取り組みました。

①・・・具体的な目標数値

②・・・丹波市社協地域福祉ビジョンの実現目標である「親切丁寧・安心・安全で質の高いサービス提供」や「業務改善」のために具体的にに取り組むこと

③・・・目標数値達成のために具体的にに取り組むこと

【進捗状況達成度測定基準】

◎／目標に対して取り組み、目標どおり達成した。

○／目標に対して取り組み、目標どおりではないが、概ね達成した。

△／目標に対して取り組んだが目標に届かなかった。

×／目標に対して取り組んだが目標に大幅に届かなかった。

① 東部ケアマネジメントセンター

収入目標額	53,687,000 円	達成状況	53,245,090 円 (99.2%)
目 標			達成度
①ケアマネ1人当たりの月平均担当件数 正規：35.5件 嘱託：32件 臨時：26件 ※月平均請求件数 278件			△
②利用者や家族、地域の状況、感染症や災害など社会の多様化に対応できるように、介護保険以外の研修にも各ケアマネが年1回以上参加し、定例会で事業所内共有する。困難事例や課題については、週1回の会議でケアマネ1名が事例を提出しケアマネ相互の意見交換などを行います。これらにより事業所全体で幅広いスキルを習得できるようにします。			◎
③目標件数達成が継続できるよう各自が自らの担当件数を常に確認し新規利用者を受け付けていきます。関連機関との連携、コスト削減、業務の効率化につながるように、まずは「医療連携システム」「ラインワークス」「ケアプランデータシステム」を各自が理解できるよう、システム理解の勉強会を年2回以上行い事業所内で活用できるようにします。			×
実績評価	①上半期は目標数値を超えましたが、下半期は次年度に向けての体制が不透明な状況が続いたことや職員の療養休暇も重なり、新規利用者の受け入れが困難であった結果、年間では目標数値を下回りました。 ②研修や事例検討会へは目標に沿って参加できており、その内容も事業所内で共有できました。 ③目標人数達成の意識は各自が持っています。「医療連携システム」は運用主体である丹波医療介護連携推進機構が解散しシステムが終了しました。丹波市が開始される予定だった「ラインワークス」を活用したシステムは運用が始まっていません。「ケアプランデータシステム」は運用予定ですが他法人の取組が遅れているため、業務の効率化には至っていません。引き続き業務のICT化については研究します。		

●東部居宅 ※R4→R5 (R4:正規4名・嘱託1名・臨時4名) R5同じ													
収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(円)	4,484,790	4,301,360	4,414,660	4,369,714	4,336,252	4,374,140	4,505,050	4,531,980	4,477,950	4,366,570	4,553,900	4,463,770
	R5(円)	4,850,940	4,587,900	4,581,190	4,595,800	4,511,780	4,411,770	4,411,730	4,414,730	4,382,320	4,257,090	4,182,210	4,057,630
	R4目標値	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750	4,677,750
	R5目標値	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917	4,473,917
件 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(件)	268.0	267.5	272.5	270.5	271.5	274.0	282.0	286.0	284.5	278.0	277.0	271.0
	R5(件)	287.0	291.5	290.5	291.0	286.5	280.0	279.5	280.5	278.5	274.0	266.5	256.5
	R4目標値	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0
	R5目標値	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0	278.0

※介護保険事業、受託事業、補助事業収入のみ

② 西部ケアマネジメントセンター

収入目標額	50,380,000 円	達成状況	45,103,870 円 (89.5%)
目 標			達成度
①ケアマネ1人当たりの月平均担当件数 正規：35.5件 嘱託：32件 臨時：26件 ※月平均請求件数 261.5件			△
②多様で複雑な社会ニーズに応じていくため、ケアマネとしての資質向上を目指して、介護保険関係以外の研修にも積極的に参加し、習得した知識を事業所内で共有します。(一人1回は受講し、必ず事業所内で伝達するようにします。) また、週1回の連絡会議でケアマネ1名が事例を提出し、相互に助言や意見交換を行います。			◎
③月1回の定例会で目標額と実績を対比し、職員一人一人が目標数値に対する意識を持てるようにします。ケアプランデータ連携システムの導入により、業務の簡略化を行い、新規利用者の獲得(面談、契約、退院カンファへの参加など)に時間を活用します。			△
実績評価	①令和5年2月から9月にかけて職員体制が不安定だったため、新規利用者の受け入れを基本的にストップする状態が続きました。9月からは受け入れを再開しましたが、職員2名がケアマネ更新研修期間と重なっていたことから、秋以降も直接の依頼や包括からの紹介件数が伸び悩み、目標数値を達成することができませんでした。 ②研修については、各自が年度当初の計画に沿って、関心のある研修に参加し、報告書を回覧することで他の職員にも共有できました。また、週1回の連絡会議で困難ケースを出し合い、支援方法について全員で相談する機会を持ちました。 ③「ケアプランデータ連携システム」は、東部ケアマネジメントセンターと同様の理由で利用には至っていません。状況を見ながら検討していきます。		

●西部居宅 ※R4→R5 正規1名減・臨時1名増 (R5:正規5・嘱託1名・臨時2名)													
収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(円)	4,238,600	3,992,850	4,136,170	4,078,230	4,207,830	4,159,570	4,330,050	4,209,470	4,328,860	4,252,800	4,091,960	3,931,080
	R5(円)	4,248,500	3,962,440	4,094,410	3,845,390	3,771,620	3,764,620	3,701,080	3,551,150	3,582,500	3,439,370	3,526,390	3,616,400
	R4目標値	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417	4,349,417
	R5目標値	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333	4,198,333
件 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(件)	254.0	250.5	258.5	259.5	259.5	258.5	267.0	263.0	270.5	267.5	249.5	236.0
	R5(件)	251.5	248.5	251.5	239.5	234.5	235.0	245.0	224.5	223.5	219.5	220.0	223.5
	R4目標値	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0
	R5目標値	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0	271.0

※介護保険事業、受託事業、補助事業収入のみ

③ ホームヘルプセンター

収入目標額	182,830,000 円	達成状況	177,907,350 円 (97.3%)
目 標			達成度
①ヘルパー 1 人当たりの月平均訪問回数・時間 正規：71 回 61 時間 嘱託：55 回 53 時間 登録ヘルパー：74 回 58 時間 ※月平均訪問回数 4,296 回 月平均訪問時間 3,392 時間			○
②引き続き感染予防対策に努め、利用者の生活を支えるサービスを提供します。また、毎月の定例会で研修を行うとともに、研修会 1 回、事例検討会 2 回を開催し、ヘルパーとして必要な知識を学びます。			◎
③毎月、収入等実績を職員間で共有し、目標額達成についての意識向上を図ります。訪問介護の需要は今後も増加すると考えられ、ヘルパーの人員確保が大きな課題となっています。年 2 回、パワハラなどの研修に職員が参加し、事業所研修会で他の職員に伝えます。また、ICT に関する検討会を 3 回開催します。			◎
実績評価	①ヘルパー 1 人当たりの月平均訪問回数・時間 正規：60 回 50 時間 嘱託：68 回 58 時間 登録ヘルパー：60 回 47 時間 ※月平均訪問回数 3,991 回 月平均訪問時間 3,189 時間 訪問回数の多いご利用者様の死亡や入院が多く契約終了が相次いだ為、当初計画に比して減収になりました。新規利用者は月平均 14 件程度受け入れていましたが訪問回数の多い身体介護が減り、生活援助サービスが増加している状況です。 ②昨年度はBCP作成や報酬改正前であった為、目標にどおり積極的に研修を受講することができました。またコロナ禍で中止していた参集型の研修にも徐々に参加しています。研修後は研修報告・研修資料を共有し、サービスの質の向上に向け事業所全体で研鑽しています。 ③実績等は 2 ヶ月に 1 度、調整会議（主任以上）にて情報共有した上で職員にも毎月回覧して目標値に向けた意識向上を図っています。 事務軽減によるタブレット導入については、県補助金の関係で手続きが遅れていましたが、3 月に納品が完了し、新年度から全職員向けに研修会を開催して活用を始めています。		

●訪問 ※R4→R5 人員体制変更なし（R5正規15名・嘱託2名）													
収入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(円)	15,763,315	15,911,749	15,365,660	15,218,090	15,277,228	15,756,651	15,622,257	16,364,114	16,103,985	14,110,838	14,521,998	16,234,088
	R5(円)	14,803,084	15,381,379	15,921,679	15,269,313	15,327,214	14,785,729	15,326,129	14,706,907	14,249,059	13,632,371	14,416,032	14,088,454
	R4目標値	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250	15,056,250
	R5目標値	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833	15,235,833
回数・時間数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(回数)	4,350	4,396	4,289	4,207	4,227	4,211	4,301	4,339	4,356	3,807	3,870	4,408
	R5(回数)	3,906	4,163	4,274	4,075	4,140	3,914	4,162	3,934	3,852	3,795	3,828	3,844
	R4(時間数)	3,422	3,444	3,355	3,321	3,377	3,381	3,407	3,372	3,440	2,978	3,071	3,518
	R5(時間数)	3,056	3,308	3,889	3,220	3,183	3,078	3,344	3,085	3,086	2,980	3,049	2,985
	R4目標値(回数)	4,283	4,283	4,283	4,283	4,283	4,283	4,283	4,283	4,283	4,283	4,283	4,283
	R5目標値(回数)	4,296	4,296	4,296	4,296	4,296	4,296	4,296	4,296	4,296	4,296	4,296	4,296
	R4目標値(時間数)	3,457	3,457	3,457	3,457	3,457	3,457	3,457	3,457	3,457	3,457	3,457	3,457
	R5目標値(時間数)	3,397	3,397	3,397	3,397	3,397	3,397	3,397	3,397	3,397	3,397	3,397	3,397

※介護保険事業、障害福祉サービス事業、受託事業、補助事業収入のみ

④ 西部デイサービスセンター

収入目標額	74,911,000 円	達成状況	72,403,323 円 (94.7%)
目 標			達成度
① 1日当たりの月平均利用人数 24.9人 介護：24.6人・総合サービスA：0.3人→稼働率：介護 80.2%・総合 6.0% ※定員：介護（総合現行相当・障害含む）30人 総合サービスA（週3日）：5人			○
②無料1日利用体験（食事代負担あり）を有効に活用し、西部デイの内容を確認いただき、新規利用につながるよう取り組みます。（紹介先のケアマネと連絡を取り合い情報収集） 月1回の職員会議で利用者の情報を共有し、事故防止等を検討します。また職員が共通認識を持つための研修を年1回以上実施します。 利用者様を第一に考え安心・安全に利用して頂けるように、感染対策に努めます。			◎
③毎日利用者数を掲示し、常に稼働率80%以上を目指します。また、毎月、3件以上新規登録の確保につなげます。毎月、居宅介護支援事業所等へ実績報告書を持参する際、新パンフレットと利用空き状況報告書を持参し、新規利用者の確保につなげます。目標が達成できるよう、どんなときも笑顔で取り組みます。			◎
実績評価	①介護保険利用者の年間稼働率は73.3%となり80%には届きませんでした、令和4年度に比べ大きく改善しました（令和4年度59.7%）。 ②無料1日利用体験は12件ありほぼ新規の利用に繋がりました（年間新規利用26件、再利用2件、追加利用15件、死亡6件、入所3件、家人都合などで退所件）。また、春日地域は9件の利用があります。 ③①②のように稼働率は73.3%、新規利用者26人（月平均2.17人）と目標達成には至りませんでした、毎月居宅介護支援事業所へ空き状況や利用者の状況を報告するなどし、新規利用者獲得に向け事業所への信用・信頼を得るために全職員で取り組むことができました。		

●西部デイ ※R4→R5 正規1名減、嘱託1名減（R5正規2名・嘱託1名）													
収入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(円)	5,358,440	5,340,000	5,474,730	4,998,950	5,027,020	5,035,890	5,033,020	5,161,930	5,046,330	3,082,900	4,831,980	5,302,970
	R5(円)	5,273,080	6,144,338	6,360,390	6,419,780	6,003,380	6,050,130	6,382,820	6,326,845	6,270,830	5,442,050	5,516,440	6,213,240
	R4目標値	6,182,542	5,935,241	6,429,844	6,182,542	6,429,844	5,935,241	6,182,542	5,935,241	6,182,542	5,687,939	5,440,637	6,429,844
	R5目標値	6,199,459	6,457,770	6,716,081	6,457,770	6,716,081	6,199,459	6,457,770	6,457,770	6,457,770	5,941,149	5,941,149	6,457,770
延人数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(延人数)	494	487	504	467	484	473	480	490	478	283	442	501
	R5(延人数)	484	562	594	578	564	560	617	604	588	530	568	578
	R4目標値	577.5	554.4	600.6	577.5	600.6	554.4	577.5	554.4	577.5	531.3	508.2	600.6
	R5目標値	554.0	578.0	601.0	578.0	601.0	554.0	578.0	578.0	578.0	531.0	531.0	578.0

※介護保険事業、障害福祉サービス事業、受託事業、補助事業収入のみ

⑤ 訪問入浴サービスセンター

収入目標額(補助金除く)	20,591,000 円	達成状況	21,741,838 円 (105.7%)
目 標			達成度
① 1 日当たりの月平均利用人数 7.0 人			△
② 毎月 1 回、利用者情報の共有、業務における事故防止、業務改善について職員全員で協議し事業運営に反映します。 職員の資質向上のため、職員 1 人につき年 2 回以上業務に関する研修に参加します。			○
③ 職員一人一人が目標数値を意識し、3 人体制の稼働日を週 3 日以上に増やし経費削減に努めます。 居宅介護支援事業所や各関連機関と月 1 回連携を図り、信頼関係を築くと共に月 3 人の新規利用者の確保につなげます。			○
実績評価	① 1 日 7 人を目標に稼働しましたが、年間実績は平均 6.5 人と目標には僅かに届きませんでした。 ② 利用者の情報共有やヒヤリハットについては、ノートの活用や印刷物を配布し、業務改善事項についても随時事業所内でコミュニケーションをとりました。研修への参加は、業務の状況もあり管理者が主に参加し、職員へは内容を伝達するようにしました。 ③ 常に経費削減を意識し、3 人体制での稼働を目指しましたが、4 人体制での訪問は年間約 60%という結果でした。居宅介護支援事業所との連携は月 1 回必ず行い、緊急時だけでなく細やかな連携を図りました。新規利用者も断ることなく、迅速に受け入れた結果、月平均 3 人には届きませんでした。2.5 人の新規利用者を確保することができました。		

●入浴 ※R4→R5 人員体制変更なし (R5正規2名)													
収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(円)	1,301,910	1,420,520	1,475,680	1,289,430	1,653,170	1,518,390	1,314,090	1,456,950	1,784,450	1,589,910	1,649,190	1,974,070
	R5(円)	1,866,840	1,653,156	1,878,660	1,829,860	2,026,640	1,888,290	1,897,970	1,744,070	1,856,140	1,677,070	1,900,762	1,522,380
	R4目標値	1,918,607	1,822,676	2,110,467	1,918,607	2,110,467	1,918,607	1,918,607	1,918,607	2,014,537	1,822,676	1,822,676	2,110,467
	R5目標値	1,680,898	1,764,943	1,848,988	1,680,898	1,848,988	1,680,898	1,764,943	1,680,898	1,764,943	1,596,853	1,596,853	1,680,898
件 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(件)	94	103	107	93	119	110	95	104	127	114	118	141
	R5(件)	129	133	139	131	144	134	136	125	134	120	120	110
	R4目標値	140	133	154	140	154	140	140	140	147	133	133	154
	R5目標値	140	147	154	140	154	140	147	140	147	133	133	140

※介護保険事業、受託事業、補助事業収入のみ

⑥ 相談支援事業所

収入目標額(受託金除く)	6,949,000 円	達成状況	5,138,650 円 (73.9%)
目 標			達成度
①相談支援員 1 人当たりの月平均請求件数 正規：19 件 嘱託：19 件 臨時：15 件 ※月平均請求件数 53 件 担当件数 正規：40 件 嘱託：40 件 臨時：35 件			×
②職員の知識、技術力の向上のため、職員 1 人当たり年 2 回以上研修を受講します。月 1 回の定例会や週 1 回の会議で伝達事項や事例検討を行い情報共有します。日頃から事務の記録をしっかりと行い加算の算定要件を満たすように書類の作成をして請求事務に間違いがないように職員相互で月 1 回点検します。			○
③障がい者の研修会・交流会に年 2 回以上参加します。地域で生きづらさがある方の相談にのり、毎月 1 回交流会を開催します。			○
実績評価	①過誤請求内容の確認や事務執行の是正に多くの時間を要し、目標とする数値に届かず月平均請求件数は 28 件でした。 担当件数 正規：22 件 嘱託：41 件 臨時：22 件 ②職員は積極的に研修参加するようにし、法令・報酬請求関係の内部研修を含め 3 名の職員で 22 回の研修に参加しました。 ③障がい者交流会は毎月開催することができ定着しつつあると評価しています。今後ボランティア活動・ピアサポーター養成活動に向け関係機関との協働により取り組んでいきたいと考えています。		

●相談支援 ※R4→R5 人員体制変更なし(正規1名・嘱託1名・臨時1名)													
収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(円)	720,420	534,760	475,500	639,560	570,560	409,420	687,240	494,280	389,320	691,400	509,960	446,820
	R5(円)	530,060	304,700	337,660	556,380	486,380	365,810	510,580	424,240	351,120	491,500	451,440	328,780
	R4目標値	816,833	816,833	816,833	816,833	816,833	816,833	816,833	816,833	816,833	816,833	816,833	816,833
	R5目標値	579,083	579,083	579,083	579,083	579,083	579,083	579,083	579,083	579,083	579,083	579,083	579,083
件 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(件)	40.0	31.0	29.0	39.0	33.0	25.0	37.0	31.0	26.0	42.0	34.0	31.0
	R5(件)	35.0	21.0	21.0	37.0	32.0	23.0	33.0	30.0	23.0	34.0	29.0	22.0
	R4目標値	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0	56.0
	R5目標値	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0	53.0

※障害福祉サービス事業、受託事業、補助事業収入のみ

⑦ 東部地域包括支援センター（介護予防）

収入目標額(補助金除く)	7,518,000 円	達成状況	9,119,300 円 (121.3%)
目 標			達成度
①ケアマネ1人当たりの月平均請求件数 正規：50件 嘱託：45件 ※月平均請求件数140件			◎
②ケアマネジャーが不足しつつある中、要支援認定の方を可能な限りセンターで担当し、要介護認定の方が地域のケアマネジャーに担当していただけるようにします。			◎
③対人援助職者として専門性向上研修に、1人につき年2回以上受講します。			◎
実績評価	①今年度は東部包括開設以降、最も請求件数が多く、年間実績で2,042件（令和4年度：1,875件）となりました。月平均請求件数は168件であり、目標値も上回りました。今後も要支援認定の方に対して適切なケアマネジメントが実施できるように努めていきます。 ②地域のケアマネジャーへの委託件数は年間実績で1,061件（令和4年度1,227件）と減りました。その分、要介護認定の方は担当していただきました。委託件数が減ったこともあり、請求実績が増えたため、介護予防担当だけでなく、地域包括担当も要支援の方を担当し、総力的に取り組みました。 ③専門職として常に対人援助技術の向上や知識習得を意識して、一人につき年2回以上の研修を受講しました。		

●東部包括 ※R4→R5 正規1名減・嘱託1名増													
収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(円)	726,180	696,660	674,520	685,140	692,760	688,140	667,380	728,040	702,660	705,660	683,520	719,420
	R5(円)	734,940	744,080	757,840	777,360	752,220	756,600	786,500	777,360	787,500	754,980	752,460	737,460
	R4目標値	614,500	614,500	614,500	614,500	614,500	614,500	614,500	614,500	614,500	614,500	614,500	614,500
	R5目標値	626,500	626,500	626,500	626,500	626,500	626,500	626,500	626,500	626,500	626,500	626,500	626,500
件 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R4(件)	157	156	154	150	152	153	151	156	157	157	154	159
	R5(件)	161	165	167	169	169	169	169	171	173	171	167	167
	R4目標値	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140
	R5目標値	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140

※介護保険事業、受託事業、補助事業収入のみ

⑧ 東部地域包括支援センター（地域包括）

目 標		達成度
①「ちいきの保険室」を春日地域3回、市島地域3回開催します。専門職が高齢者と直接対話し、健康チェック等をしてしながら、生活のしづらさや悩み等を聞き取ることで、地域の高齢者が抱える課題を探ります。		△
②ケースについて、関わっている事業所や丹波市高齢者あんしんセンターと連携を取り合い、支援の方向性を共有し、終結に向け協働して関わられるように努めます。総合相談では、相談者から「何に困っているのか」、「誰が困っているのか」、「何を求めているのか」、「誰が求めているのか」を聴き取り、相談者が納得し安心されるような対応をしていきます。毎週の総合相談スクリーニング開催時に、職員一人一人の役割が遂行できているか確認できる体制を築きます。		◎
③認知症の方やその家族が気軽に立ち寄り、交流できる場である「認知症カフェ」について、東部圏域に1カ所立ち上げることを目指します。		◎
実績評価	①地域の高齢者が集う場に出向き、「ちいきの保健室」を開催して高齢者の方々と対話をしました。春日地域では8回開催しましたが、市島地域では出向ける機会がありませんでした。令和6年度からは出前講座に集約し、形を変えて地域の高齢者が抱える課題を探ります。 ②ケースに関しては、関わる事業所や高齢者あんしんセンターと連携を図りながら終結に向け関わることができました。また、毎週の総合相談スクリーニング会議ではケース共有だけで終わらず、援助の振り返りも行いながら人材育成にも取り組みました。 ③5月から認知症カフェを認知症サポーター養成講座修了者等、様々な市民の方々に協力していただきながら、月1回実施しました。参加者の方も増え、認知症の方やその家族、地域の支援者、専門職の方々がゆっくり集える場として立ち上げることができました。令和6年度も「ゆうゆうカフェ」という名称でハートフルかすがにて月1回開催していく予定です。	